

「リフォーム」で快適わが家

VOL.7



家族数と部屋数



子どもが2人だから 3LDKほしい

「念願のマイホームを手に入れた」「すごい、何LDK?」「4LDKよ」と、家を表す指標として当然のごとく語られる。LDKといふ言葉。でも「部屋数イコール暮らしやすさ」とは限りません。〇LDKほしい」との考え方はひとまず忘れ、実際の暮らし方に焦点を当て、もっとフレキシブルに家づくりを考えませんか? これこそマイホームをより快適にリフォームするポイントなのです。

閑静な住宅街にお住まいのHさん。昨年、ご実家の1階をこ両親、2階をHさん家族の暮らし二世帯住宅に改築されました。私が初めてH邸にうかがったときのことです。「将来、子どもを2人産む予定なので3LDKにしてほしい」とHさん。このご希望には少々面食らいました。奥様のおなかには赤ちゃんがいましたが、現段階ではご夫婦だけ。まだみぬ将来のために3つの個室を確保し、残ったそう広くないLDKで一日の大半を過ごすような暮らし方が、Hさん家族にとってはたして快適

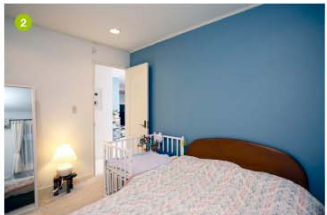
か疑問に感じたのです。
暮らし方にあわせて
間取りを変える

私は家族数イコール部屋数ではないと考えています。暮らし方は多様であり、自分たちがどんな暮らし方をしたいのか見つけてこそ、快適な間取りを構成できます。H邸を例にみれば、赤ちゃんが生まれてまず必要になるのは、自由にハイハイできる広々としたスペース。次はおもちゃ遊びのできるプレイルームです。ゆくゆくは勉強部屋も必要ですが、幼いうちは勉強机とベッドは別の部屋にあるほうが機能的かもしれません。子ども部屋一つをみても、どんな機能を

持たせるかは親の教育方針によって変えられるのです。Hさんには1LDKのプランを提案しました。寝室を広めにつくり、リビングダイニングは約24畳の大空間。もちろん将来を見越しておくことも、リフォームの重要ポイントです。必要となったときに、個室2つを簡単に作れる構成にしました。間取りは家族の暮らしにあわせて流動的に変化させられるものです。限られたスペースをより広々と快適に使うには、そのスペースで何をするのか行為に焦点を当て、壁は必要な個所にのみつければよい。家族の人数分部屋を整えても、それが快適だとは限らないのです。



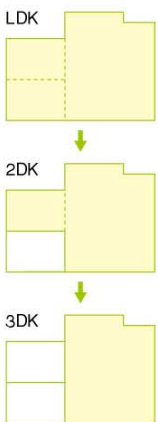
絶景を覚醒させるリノベーション
ルーバルコニーからの眺めは、都心のビル群を見逃せる絶景。ご夫婦は休日の朝食をここで楽しむ。



落ち着いた雰囲気のある寝室
メインカラーは白、テーマカラーはウエッジウッドのブルーでインテリアカラーを統一。寝室はホテルのような落ち着いた雰囲気だ。



24畳の広々リビングダイニング
これから子育てを始めるH邸のリビングダイニングは子どもがのびのび遊べ、かつ子どもがどこにいても親の目が届くオープンプランとした。



LDKから3LDKまで対応可能なプラン
リフォーム後のH邸の間取り。現在は24畳のLDKが、破綻のように、いずれ子どもの成長とともに2つの個室を取れるようプランニングされている。

今回のテーマ

「オープンキッチン」

お楽しみに!



三井のリフォーム 住生活研究所 所長
西田 恭子 (にしだ・きょうこ) さん
住宅リフォーム設計を手がけ25年。その経験からリフォームの情報収集・分析をし発信している。一級建築士

三井のリフォーム
住生活研究所
Life Style Labo

西田さんが所長を務める「三井のリフォーム 住生活研究所」は、2007年10月にオープンしたリフォーム業界初のシンクタンクです。研究所のスタッフ全員が女性のリフォームプランナーで、累計10万にもものリフォーム実績をもとに、「リフォームカレッジ」でさまざまな情報発信を行なっています。またリフォームに関わる書籍も「減築」リフォームでゆうゆう快適生活」など多数発行している。
東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー7階「リモデ東京」内
TEL:0120-312-122
営業時間: 10:00~17:00 (水曜・日曜・祝日定休、年末年始休業)
www.lifestyle-labo.com